

## チームワークとリーダーシップ

2014年10月10日 アシエル・イントレーター

何年もの前、私がイスラエル、教会、メシアニックジューの「残りの者」そして終わりの時について聖書の中の約束を調べていた時、それら成就させるには、誰も十分に強くなく、賢くなく、正しくないという結論に私は達しました。もし神がそれらに関わるように私たちを呼ばれるならば、私たちはチームとして共に労しなければなりません。もし私たちがチームワークを構築する事ができなければ、私たちは神のご計画を成就させる事はできません。

チームとして労する事は決して簡単なものではありません。チームには、いろいろな人々が関わり、人々は問題を抱えています。彼らは自分の弱さ、意見の違い、プライド、恐れ、頑固さ、フラストレーションなどを持ち込みます。人々は自分の「荷物」と「ゴミ」を持ってやって来ます。

ある時、私は自分のスタッフたちに子どもたちのジグソーパズルのピースを配りました。私たちはそのパズルのピースを机の真ん中に持って行って、それらを合わせなければなりません。バラバラのピースには何の意味もありませんが、それらが合わさった時、絵が現れます。

それぞれのピースには、内向きのカーブと外向きのカーブがあります。私たちは内向きのカーブを自分たちの弱さや必要と解釈し、外向きのカーブを自分たちの才能や長所と解釈しました。内向きのカーブ、すなわち私たちの弱さが、ピースを合わせる事ができるのです。絵の全体を形成するには、鍵となるのは、各自が他者の必要性を理解してあげる事でした。私たちは自分たちの弱さを互いに合わさるものとして受け入れ、一方自分たちの強さは互いをバラバラにする事があります。

私は現在、リバイブ・イスラエル、ティックーン、アハヴァットイエシュアそしてティフェレット・イエシュアの長老として奉仕しています。神に感謝なのは、それぞれのチームが主の恵みによって大いに実を实らせている事です。私は十分に自分の弱さを認識しており、私が貢献するのは何であろうかと、確信がはっきりしないことがしばしばあります。それぞれのチームは、それぞれの流儀で、才能豊かで高い動機のある人々で占められています。

もし私が何か正しい事をしたというものがあるとするならば、それはチームワークの感触と、共有される「所有権」によるものと思います。それぞれのグループで明らかなのは、チームの中で「与え、そして受け取る」という交流がある事です。それ自身は関わる人々に安心を与えるのです。たった一人の個人に依存するものではありません。

最近、私は自分のチームワークの目標を簡単な三つのステップのガイドラインにまとめました。

1. あなたの成功
2. 私たちが一緒になること
3. 次世代への受け渡し

最初の優先順位は他者が関わる事に対する成功を望む事です。その態度は「もしあなたが成功を助ける事ができるならば、私は自分の仕事をした。」というものであるべきだと思います。

二番目の優先順位は、チームの一致を維持し続ける事です。一致を維持するために、全員が自分自身を犠牲にしなければなりません。従う事は一致に対して支払う対価です。

三番目の分野は訓練と受け渡しに関わります。神の御国の目標は誰にとっても大きすぎるというだけではなく、どの一世代にとっても大きすぎるのです。受け渡しする役割と位置は両方向へと行きます。すなわち年配者に対して「上へ、外へ」そして若い世代に対し「下へ、中へ」です。

その受け渡しはまるで家族のようで、子が両親となり、そして両親が祖父母となるようです。権威は徐々に年配者から離れていき、若い年代へと受け継がれて行きます。しかし、年配者は影響力を持ち榮譽を受ける立場として残ります。

このようなチームワークの原理と契約的關係はすべての生活の側面において、皆さんが大いなる実を成らす事ができる助けとなる事を、私は希望します。(ヨハネ 15:5、8、16)。

## 祈りのリクエスト

今月あまりに多くの事が起こり、私たちはそれらを説明するのが困難です。ヨム・キプールの祈りの修養会は今までの中で最高でした。アラブ・クリスチャンと中国人クリスチャンとの、私たちの関係において重要な突破口がありました。私たちのチームの様々なメンバーたちが海外へ短期宣教旅行に出かけました。そしてもちろん、私たちの国はこの夏の戦争から回復しており、戦争による金銭的、外交的な課題に取り組んでいます。私たちは皆様からの継続した大いなる祈りと支援を心から感謝しております。

## ヨム・キプール祈りの修養会

エディ・サントロ

エルサレム郊外にある丘の上、世界で唯一のメシアニック・キブツにおいて、230 人のイスラエル人メシアニック・ユダヤ人が集まり、大いなるヨム・キプールの祝祭日をお祝いしました。エルサレムとテル・アビブにある5つのコングリーゲーションから成り、一致と愛により動かされ、イスラエルや世界中の人々の

ための祈りと執り成しを行い、王のための力強い礼拝を行い、多くの深い、愛し合う交流がありました。

これらすべてがイスラエルで行われており、それらがヘブライ語で行われている事は神がイスラエルで働かれているしるしであり、それが私たちを奮い立たせています。そして、主の再臨の日が近づいているというしるしでもあります。アハヴァット・イエシュア・Congregationにおいて、私たちは、ロシュ・ハシャナー（ラツパを吹き鳴らす祭）は黙示録に述べられている「艱難の七つのラツパ」についてであり、それは主の再臨の道を整えるものだと教えます。イエシュアの再臨の前触れとなる「大いなるラツパを吹き鳴らし」は(1 コリント 15:52 テサロニケ 4:16、マタイ 24:31)ヨム・キプールを締めくくる最後の大いなるラツパの吹き鳴らしとなると私たちは信じています。

24 時間の断食、賛美そして礼拝は小さなキブツの上の天を開きました。最終の集会に近づくにつれ、私たちの集会の終わりにおいて最後のラツパの吹き鳴らしを行ったとしても、その日イエシュアは戻ってきませんが、その約束された油注ぎと力の一部が開放されるものと私たちは感じています。

太陽が沈むにつれ、角笛を吹く人々が集会が始まる前に集まりました。そして、大いなるラツパの吹き鳴らしが行われ、Congregation全体がさらに延長された礼拝へと入って行きました。「イスラエルはみな救われる」を見るために共に働き続ける事により、神の力が私たちの上に注がれ、新たに強められ、油注ぎが私たちに分け与えられると私たちは強く信じています。

今年のこの 24 時間のヨム・キプールは本当に戦略的な準備の時でした。私たちのエルサレムにおいての召命に熱心に働き続ける事について、どうか共に祈り下さい。闘いは多く、抵抗は非常に大きいのですが、私たちは新たに励ましを受け、来る日に新しい突破口が開けるものと期待しています。